砂浜で見られる動物の仲間たち

ヘラシギ

チドリ目シギ科 / 15cm

世界に数百羽しかいないとされている大変希少なシギの仲間です。夏にロシアで繁殖し、ミャンマー・バングラディシュなどで越冬します。日本へは春と秋の渡りの時期に飛来しますが、特に秋の渡りの際には砂浜にいる小型の甲殻類が重要な餌となっています。

コアジサシ

チドリ目カモメ科 / 24cm

オーストラリア方面で越冬し、初夏に子育てのために日本各地へ渡ってくる夏鳥です。水はけのよい砂浜や埋立地、河原などで集団で繁殖します。上空から水面へ急降下しイワシなどの小魚を捕る様子から、「鯵刺」という名前がついたと言われています。

カワラハンミョウ

コウチュウ目ハンミョウ科 / 1.5cm

砂の豊富な開けた環境に生息しています。かつては河川敷にも生息していたようですが、各地で絶滅してしまい、現在では主に環境の良い限られた海岸砂丘で見られます。体の模様は地域によって異なり、福岡県の個体は白地に複雑な斑紋をもちます。

ハマベウスバカゲロウ(幼虫)

アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科 / 1cm

環境の良い海岸砂丘に生息し、すり鉢状の巣をつくる「アリジゴク」の仲間です。成虫はトンボのような姿をしています。日本海側の限られた場所でしか見つかっておらず、大変貴重な昆虫です。福岡県は現在知られている中で最も南の生息地です。

ナミノリソコエビ

端脚目ナミノリソコエビ科 / 1cm

小さな甲殻類の仲間で、きめが細かく綺麗な砂浜の波打ち際に生息しています。博多湾では初夏から秋にかけて繁殖して個体数が増加するため、秋の渡り期のシギ・チドリ類や魚類の大切な餌となっています。

写真：NPO法人南港ウエットランドグループ理事 和田 太一

ハマトビムシの仲間

端脚目ハマトビムシ科 / 1cm

小さな甲殻類の仲間です。岩礁地や砂浜に生息しており、打ち上げられた海藻の下に隠れています。海藻を持ち上げると四方八方へと飛び跳ねます。秋の渡りの時期のシギ・チドリ類の重要な餌の一つです。

写真：NPO法人南港ウエットランドグループ理事 和田 太一

砂浜は 生きものと生きものが出会う 場所

周囲を海に囲まれた私たちの国、日本において砂浜の存在はかけがえのないものです。砂浜は、海と陸と空がまじわるところであり、生きものと生きものが出会う場所です。

海から陸へと続く砂浜の緩やかな移行帯（エコトーン）は海からの波や風がもたらす特異な環境となっており、そこには絶滅の危機に瀕する多くの生きものが暮らしています。植物、昆虫、鳥をはじめ、多様な生きものが食べる・食べられるという命のつながりのもと、特異な生態系をつくり上げています。また、砂浜や干潟はアサリを採る、海苔を摘む、魚を釣るなど、私たち人間にとって生活の糧を得る身近な場所であり、私たちはその豊かな恵みを受けて生活をしてきました。

しかし IPCC 第 5 次評価報告書によると、地球温暖化等により 21 世紀末までに世界の海面は 26～82cm 上昇するとされており、砂浜の 46～91% が消失する予測（東北大学災害科学国際研究所）されていることからも、海から砂浜へと続く景観は危機的な状況にあります。

たくさんの生きものが暮らす美しい砂浜を守るために、私たちができることは何でしょうか？このパンフレットを通じて、砂浜の特異な環境と、そこで暮らす様々な生きものを知るきっかけになりましたら幸いです。

▶福津市勝浦海岸のコウボウムギ群落

〔発行〕令和２年３月

NPO 法人 ふくおか湿地保全研究会
〒813-0044 福岡県福岡市東区千早 1-6-14
URL http://wetland-research.org

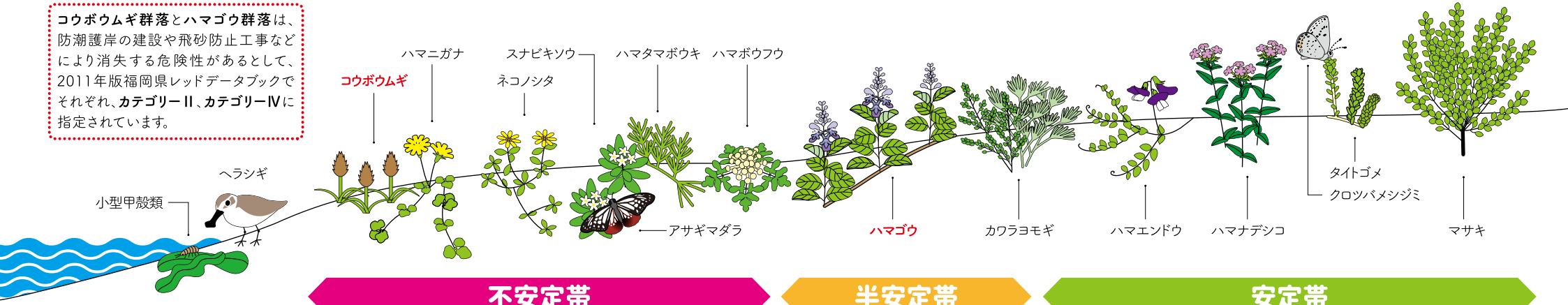
Click! 湿地研 検索

■このリーフレットは、公益信託サントリー世界愛鳥基金の助成で作成しました。

砂浜の植生と植物

海から吹き付ける強い潮風は、砂を吹き飛ばし、ある時は盛り上げるなど、砂を大きく移動させ砂浜に大きな撹乱（かくらん）をもたらします。
このような撹乱や乾燥、貧栄養といった過酷な環境に生育するために、海浜植物は特殊な性質や形状が発達しています。

コウボウムギ群落と**ハマゴウ群落**は、防潮護岸の建設や飛砂防止工事などにより消失する危険性があるとして、2011年版福岡県レッドデータブックでそれぞれ、**カテゴリーII**、**カテゴリーIV**に指定されています。



不安定帯

砂の量が多く、撹乱の影響が大きい環境

半安定帯

飛ばされる砂と積もる砂の量が同じくらいか、砂の移動が少ない環境

安定帯

地形的に風が弱まる、植物が地表を覆うなどにより砂の移動がほとんどない安定した環境

コウボウムギ

カヤツリグサ科 / 多年草

砂の中で硬くて丈夫な地下茎が枝分かれして広がり、砂浜海岸一面に群落を作ります。太くて短い茎と硬い葉は砂混じりの強い潮風に耐えます。初夏、筆に似た花の穂が出ます。

ネコノシタ

キク科 / 多年草

葉は厚く毛があり、ザラザラとした手触りが猫の舌に似ていることが名前の由来です。砂の上を這うように長く茎を伸ばし、夏の暑い日差しの中で次々と花が咲きます。

ハマタマボウキ

キジカクシ科 / 多年草

砂の上を這うように茎を伸ばします。葉に見えるのは葉状枝と呼ばれる短い枝が変化したものです。初夏につりがね型の花が咲き、夏から秋に丸い実が赤く熟します。

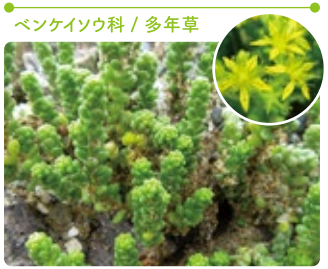
ハマゴウ

シソ科 / 匍匐性小低木

太い茎が砂の上を這って広がります。葉には白い毛が密生しスベスベしています。枝葉ともに爽やかな芳香があり触るだけで香ります。夏、枝先にたくさんの薄紫色の花をつけます。

タイトゴメ

ベンケイソウ科 / 多年草



砂丘と低木帯の境界や岩場、風が強い草地など様々な場所で見られます。小さく丸い葉は肉厚でたっぷりと水分を含みます。小さな蝶クロツバメシジミの食草です。

ハマエンドウ

マメ科 / 多年草

茎は砂の上を四方に広がり、硬くて丈夫な地下茎が砂の中深くに入り込んでいます。春から初夏に咲く花は鮮やかな赤紫色で、時間が経つにつれて淡い紫色に変化します。

ハマニガナ

キク科 / 多年草

砂の中の浅いところに地下茎を伸ばし、葉と花が砂の上に出ます。砂を被っても葉柄が伸び、また砂の上に出ます。茎や葉はとても苦く、花は春から秋にかけて見られます。

スナビキソウ

ムラサキ科 / 多年草

単独で生えているようにも見えますが、砂の中で枝分かれしています。茎や葉は白毛があり、初夏から咲く花はいい香りです。渡り途中のアサギマダラが蜜を吸いに訪れます。

ハマボウフウ

セリ科 / 多年草

砂の上に低く葉を広げ、根は太く、地中深くまっすぐ伸びています。厚く光沢のある葉にはセリ科特有の強い香りがあり、若芽は刺身のつまなどに利用されます。

カワラヨモギ

キク科 / 多年草

同じ株でも葉の色が異なり、花が咲く茎の葉は黄緑色（写真手前）、花が咲かない茎の葉は白い絹毛に覆われ緑白色（写真後方）です。寄生植物ハマウツボの宿主です。

ハマナデシコ

ナデシコ科 / 多年草

砂丘と低木帯の境界や崖地、礫浜など砂の移動がないところで見られます。濃緑色の葉は光沢があり、夏に薄桃色の小さく可憐な花が集まって咲きます。

マサキ

ニシキギ科 / 常緑低木

光沢のある厚い葉は潮風に強く砂丘の後背地に群落を作ります。枝葉は密生し、刈り込みに強いので生垣等に利用されます。6月頃に小さい花が咲き、冬には赤い実が目立ちます。